



油麩朝和歌

4
4688



門 4688 卷

し



昭和十六年三月五日
石澤介吉氏 贈



為村柳
詠進

點

園東詠進

信之

山早去
 子日友
 海上吹奏
 回堂書寫
 玉目若菜
 松原名
 柳香留袖
 梅邊柳
 幽拓五月

いまやとを新や柳をむねのうらむをむねを懐山のた
 二葉をれ子の日れ水は引うゝあちをうらむ友とさうを先
 波々うと控ゆるのうれゆりのをさううらむゆらあさ
 水は流るるの中あはけぬあはれさのうらむそのうらむの声
 花うさくはあふれりともえきりつとわらふとわらふはま
 うはまうしこまゆきとんそ山松のことをもめらりうらむあさ
 此れ余のうらむあさうらむとこをさううらむあさのうらむ
 わらうらむあさうらむとこをさううらむあさのうらむ
 春を懐くまはむらむとあさうらむとあさうらむのうらむ

野を雨

主簿

花始開

野見花

花見人

花見元

花見風

雲雀居

春雷代

秋風居

春雷居

野をひるこやと元都一何まれにさるを枝かたき西の空

雨したくひまき居るを枝かたき西の空

うたをいよのまに誰とちまき居るを枝かたき西の空

まをいよのまに誰とちまき居るを枝かたき西の空

雨はよるまに誰とちまき居るを枝かたき西の空

むすしを誰とちまき居るを枝かたき西の空

さうひり花を誰とちまき居るを枝かたき西の空

空を誰とちまき居るを枝かたき西の空

さうひり花を誰とちまき居るを枝かたき西の空

さうひり花を誰とちまき居るを枝かたき西の空

さうひり花を誰とちまき居るを枝かたき西の空

世にまのすし
を枝かたき西の空

野

花

風

雨

雲

雀

居

春

雷

代

居

春

雷

代

居

さうひり花を誰とちまき居るを枝かたき西の空

さうひり花を誰とちまき居るを枝かたき西の空

さうひり花を誰とちまき居るを枝かたき西の空

さうひり花を誰とちまき居るを枝かたき西の空

さうひり花を誰とちまき居るを枝かたき西の空

さうひり花を誰とちまき居るを枝かたき西の空

さうひり花を誰とちまき居るを枝かたき西の空

さうひり花を誰とちまき居るを枝かたき西の空

さうひり花を誰とちまき居るを枝かたき西の空

さうひり花を誰とちまき居るを枝かたき西の空

さうひり花を誰とちまき居るを枝かたき西の空

さうひり花を誰とちまき居るを枝かたき西の空

さうひり花を誰とちまき居るを枝かたき西の空

さうひり花を誰とちまき居るを枝かたき西の空

さうひり花を誰とちまき居るを枝かたき西の空

世にまのすし
を枝かたき西の空

世にまのすし
を枝かたき西の空

世にまのすし
を枝かたき西の空

世にまのすし
を枝かたき西の空

世にまのすし
を枝かたき西の空

世にまのすし
を枝かたき西の空

世にまのすし
を枝かたき西の空

世にまのすし
を枝かたき西の空

世にまのすし
を枝かたき西の空

世にまのすし
を枝かたき西の空

世にまのすし
を枝かたき西の空

世にまのすし
を枝かたき西の空

世にまのすし
を枝かたき西の空

世にまのすし
を枝かたき西の空

世にまのすし
を枝かたき西の空

之春

雨やとるし晴戸もいと百とせれさうもれ 春の光も色も

信理

江春曙

氷より初雪とて水れはのうらさ戸をくらすむ 明月

忠真

折柳

月より初雪とて水れはのうらさ戸をくらすむ 明月

雲海島

池花

早春

新月

梅月

梅柳はは春

あはれは春の光も色も 春の光も色も

尋花

之春

行路柳

園早殿

早春鶯

柳

落花

月若柳

河春雨

暖梅

帰丁

山吹

あはれは春の光も色も 春の光も色も 春の光も色も

言はれぬ 正

政武

宗直

正方

保好

政武

同

秀助

義正

西春

春風

山

題

花

序

夜

柳

柳

序

春

侍

本代もろく何となくはあいらふとやこゝろ交まらん

少の秋もまきすくぬひらとんときらきれをり葉交

月あつとまきとて一葉の戸にとく一柳花のさうとて

まれ人の光つると花もはれとてはれとてまき花のまき

あつとまきとて油とてまきのとてまき花のまき

けの風のまきとて空のまきとてまき花のまき

まきとてまきとてまきとてまき花のまき

物あつとまきとてまきとてまき花のまき

まきとてまきとてまきとてまき花のまき

まきとてまきとてまきとてまき花のまき

まきとてまきとてまきとてまき花のまき

まきとてまきとてまきとてまき花のまき

佳孝

義正

日人

貞臣

尾形

貞臣

侍

朝

苗

辰

三

電

苗

柳

実

花

花

花

本代もろく何となくはあいらふとやこゝろ交まらん

少の秋もまきすくぬひらとんときらきれをり葉交

月あつとまきとて一葉の戸にとく一柳花のさうとて

まれ人の光つると花もはれとてはれとてまき花のまき

あつとまきとて油とてまきのとてまき花のまき

けの風のまきとて空のまきとてまき花のまき

まきとてまきとてまきとてまき花のまき

物あつとまきとてまきとてまき花のまき

まきとてまきとてまきとてまき花のまき

まきとてまきとてまきとてまき花のまき

まきとてまきとてまきとてまき花のまき

まきとてまきとてまきとてまき花のまき

貞臣

日人

貞臣

貞臣

尾形

貞臣

山家春

辰

多花

海辺花

行路花

春月出

帰丁

常山書序

花見

園遊名

春工難

吉原花見宗

山すれまのゆるれりみづうふ世は花見書いし

中らるる花のよまのそまのあつすはまのそまのあつす

さしては花見のそまのあつすはまのそまのあつす

花見のそまのあつすはまのそまのあつす

花見のそまのあつすはまのそまのあつす

花見のそまのあつすはまのそまのあつす

花見のそまのあつすはまのそまのあつす

花見のそまのあつすはまのそまのあつす

花見のそまのあつすはまのそまのあつす

花見のそまのあつすはまのそまのあつす

花見のそまのあつすはまのそまのあつす

花見のそまのあつすはまのそまのあつす

義正

陸奥中津

廣武

表之

廣道

五志

後道

貞臣

白茶

貞臣

花見

花見

花見

花見

花見

花見

花見

花見

花見

花見

花見

花見

花見のそまのあつすはまのそまのあつす

花見のそまのあつすはまのそまのあつす

花見のそまのあつすはまのそまのあつす

花見のそまのあつすはまのそまのあつす

花見のそまのあつすはまのそまのあつす

花見のそまのあつすはまのそまのあつす

花見のそまのあつすはまのそまのあつす

花見のそまのあつすはまのそまのあつす

花見のそまのあつすはまのそまのあつす

花見のそまのあつすはまのそまのあつす

花見のそまのあつすはまのそまのあつす

花見のそまのあつすはまのそまのあつす

貞臣

貞臣

政共

古峰

保好

四元

貞臣

貞臣

貞臣

梅花風静

うすしめあつたを吹くすー花よとりぬ梅れをぬき

保好

野布朝霞

紅いよるをひりわすれすよりのれまのこけい

大橋下
東福

昌御膳

何の御文書のわひりあましうまはしー花うあはら

松平邸
信亭

香暖

中ねやーうらまはれあましう松平のうらまのすむぬわの

清茂

花舟中

あまをさきうらぬりうまー花をぬらうすむぬわのま

古河

室直御門前 為村

あまをさきうらぬりうまー花をぬらうすむぬわのま

菅巻

雪よこひゆまをひしてと花をぬらぬはあまぬりうま

山本

月あ輝了

すやれぬるぬきあましー雪にぬえあぬぬ月ううぬらうま

大橋下
秀景

海上吹浪

あまをさきうらぬりうまー花をぬらうすむぬわのま

大橋下
秀景

菅天酒了

夕うまをぬらぬきあましー月待てうまー雪にぬえあぬぬ月ううぬらうま

大橋下
秀景

山影柳

花をぬらぬきあましー山影のまにうらぬりうま

伊波

汁ま

天はぬぬりうまのまに雪のうまひちぬらうぬぬ

真多郎
昌湯

明了

あまをさきうらぬりうまー花をぬらうすむぬわのま

津口

椿春

あまをさきうらぬりうまー花をぬらうすむぬわのま

政延

躑躅

あまをさきうらぬりうまー花をぬらうすむぬわのま

石川

書風

あまをさきうらぬりうまー花をぬらうすむぬわのま

系瑞

雨片花

あまをさきうらぬりうまー花をぬらうすむぬわのま

系瑞

若草

あまをさきうらぬりうまー花をぬらうすむぬわのま

系瑞

花雨新

あまをさきうらぬりうまー花をぬらうすむぬわのま

系瑞

夜梅

あまをさきうらぬりうまー花をぬらうすむぬわのま

系瑞

瓶花

あまをさきうらぬりうまー花をぬらうすむぬわのま

系瑞

花柳

あまをさきうらぬりうまー花をぬらうすむぬわのま

安郷

雪山

あまをさきうらぬりうまー花をぬらうすむぬわのま

利陳

紅葉

あまをさきうらぬりうまー花をぬらうすむぬわのま

了女

五報

四年三月

御鳥

岸柳

早老松

水辺柳

浮舟堂

初春月

朝露

松間花

五重

りたのこすむれあをれこむるこすむれあをのまはるゆら

年のうちれまううすむる川のふれ日数たあうてはとも

すその植ぬのまうまあうてむるしむるまはるむさ

柳のまはるむさむさむさむさむさむさむさむさむさ

ことむさむさむさむさむさむさむさむさむさむさ

うるとんそ中舟せくお河をまひくはるまや柳のしと

秋とこむるまはるむさむさむさむさむさむさむさ

咲花のひるあうてまゆの尾さうすむはるまの月

ぬるまはるのまはるむさむさむさむさむさむさむさ

雲うむさむさむさむさむさむさむさむさむさむさ

ゆらまはるまはるむさむさむさむさむさむさむさ

貞辰

信亭

山柳

山柳

山柳

山柳

山柳

山柳

山柳

山柳

若菜

初春辰

若菜

山辰

むさむさむさむさむさむさむさむさむさむさ

とむさむさむさむさむさむさむさむさむさむさ

ふさむさむさむさむさむさむさむさむさむさ

むさむさむさむさむさむさむさむさむさむさ

山辰

山辰

山辰

山辰



夏部

五月庚

夏夕凡

海部云

尋雨等

浦五月

吟交子

海部云

卯花

海花

夏海

神のうまゆちとれんき秋もいよより涼し五月のりうせ

池ちうははるまき一いよりのいぬもよりの夏夕の夕くを

わらわのいづれをたれはのまらつてはれさもよるをわらん

わらわのいづれをわらわのいづれをたれはのまらつてはれさ

侍らまのいづれをいづれをたれはのまらつてはれさ

生るあもあつていづれをたれはのまらつてはれさ

浪のたれをいづれをたれはのまらつてはれさ

つはてていづれをたれはのまらつてはれさ

はるまきとれんきとれんきとれんきとれんきとれんきとれんき

いづれのいづれをいづれをたれはのまらつてはれさ

利啓

秀長

保好

お路

志篤

山夕之

致遠火

中條兵庫

湖納涼

五月廿日

軍部云

夕炊き火

夏雨

更衣

卯花

葵

雪のうれをいづれをたれはのまらつてはれさ

いづれのいづれをいづれをたれはのまらつてはれさ

五月のまき井まのいづれをたれはのまらつてはれさ

わらわのいづれをいづれをたれはのまらつてはれさ

わらわのいづれをいづれをたれはのまらつてはれさ

わらわのいづれをいづれをたれはのまらつてはれさ

わらわのいづれをいづれをたれはのまらつてはれさ

わらわのいづれをいづれをたれはのまらつてはれさ

わらわのいづれをいづれをたれはのまらつてはれさ

わらわのいづれをいづれをたれはのまらつてはれさ

わらわのいづれをいづれをたれはのまらつてはれさ

わらわのいづれをいづれをたれはのまらつてはれさ

貞臣

義辰

秀助

義正

照射

郭云

路卯花

山家互典

卯花

夏 雨後

岡郭云

夏 三平

海郭云

雲

こりすれ山のこりすれ橋をへはくはれぬらるる

わらわもこの里をよめる人のほろもあま山はまきす

花いよふたあしむもあはれぬと人よこりも人

あはれぬとあはれ草のこりてして咲れぬらる

老樹もわらわ現れ言はくはれせすし山をこのりぬ

多りと神をくぬ卯のこりぬらるねはまき言の中ま

あはれ水とこりて天は空をまにまらぬらるのりはる

あはれぬらるぬらるはくはれぬらるぬらるぬらる

あはれぬらるぬらるはくはれぬらるぬらるぬらる

あはれぬらるぬらるはくはれぬらるぬらるぬらる

あはれぬらるぬらるはくはれぬらるぬらるぬらる

宗園

彦送

彦助

彦吉

彦隆院

守貞

如明

貞臣

貞吉

貞正

葵

郭云

卯月の未けをてはくはれぬらる

河雲

葵を簾

月名郭云

卯郭云

舟納涼

卯郭云

江雲

海雲

い久しき世のさくはれぬらるるをあはれぬらるる

雨とくはれぬらるる山月とあはれぬらるる

あはれぬらるるはくはれぬらるる

あはれぬらるるはくはれぬらるる

あはれぬらるるはくはれぬらるる

あはれぬらるるはくはれぬらるる

あはれぬらるるはくはれぬらるる

あはれぬらるるはくはれぬらるる

あはれぬらるるはくはれぬらるる

あはれぬらるるはくはれぬらるる

あはれぬらるるはくはれぬらるる

あはれぬらるるはくはれぬらるる

尚之

秀勝

政武

安卿

政善堂

保好

政善堂

政善堂

政善堂

政善堂

政善堂

政善堂

九月

世の此れいとおもはれし昔もあまが社者(道)と月あつて

宗因

堂

きふまてあぬいふれしひきまのあやあま眼あつてん

保好

樹陰蟬

うたせしあやうれあつてあつてあつてあつてあつてあつて

移河

大井川もあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

在之

蚊患火

こはあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

為正

鳥橋路の友

うらやまのうらやまのうらやまのうらやまのうらやまのうらやま

日余

洞窟屋

あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

貞辰

友の言ひ

あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

貞辰

待部云

あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

貞辰

福女部云

あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

貞辰

ねずみ

あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

貞辰

名取夏月

いづれいづれいづれいづれいづれいづれいづれいづれいづれ

貞辰

ねずみ

あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

貞辰

何れ元は

あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

貞辰

鹿部云

あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

貞辰

関部云

あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

貞辰

待部云

あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

貞辰

晩友雲

あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

貞辰

雲夜賀

あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

貞辰

地後十世

あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

貞辰

友の言

あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

貞辰

扇

あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

貞辰

秋の風の風とらふよりあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

貞辰

路野花

分りひしきれあそびちまふと花よりうきをたねあそびくころ

正春

女房雨

汲人のくたはたしつとほしれきよにまらね山の井のあ

ちちあんと何れとすや九月あまの晴す成ははとねうう清

暁時鳥

さけとさやうたえて何う明の日はさしれ山ゆきよは

政武

北

あそとそやすせうねとね郭とあつこ声もあつちり

林杉樹

さあふはやのあそき花よりうきや夫もわらふと

野麦草

あそと人あやうねふあそとあそとあそとあそとあそと

貞辰

蟬

あそとあそとあそとあそとあそとあそとあそとあそと

利茶

夏中郭

あそとあそとあそとあそとあそとあそとあそとあそと

貞辰

更衣

あそとあそとあそとあそとあそとあそとあそとあそと

五澄

雲

あそとあそとあそとあそとあそとあそとあそとあそと

遠山静

あそとあそとあそとあそとあそとあそとあそとあそと

貞辰

扇橋

あそとあそとあそとあそとあそとあそとあそとあそと

貞辰

扇橋

あそとあそとあそとあそとあそとあそとあそとあそと

貞辰

い雲

あそとあそとあそとあそとあそとあそとあそとあそと

貞辰

政遣火

あそとあそとあそとあそとあそとあそとあそとあそと

貞辰

障谷歩

あそとあそとあそとあそとあそとあそとあそとあそと

貞辰

掃納涼

あそとあそとあそとあそとあそとあそとあそとあそと

貞辰

馬射

あそとあそとあそとあそとあそとあそとあそとあそと

貞辰

待部

あそとあそとあそとあそとあそとあそとあそとあそと

貞辰

納涼

あそとあそとあそとあそとあそとあそとあそとあそと

貞辰

納涼

あそとあそとあそとあそとあそとあそとあそとあそと

貞辰

扇納涼

あそとあそとあそとあそとあそとあそとあそとあそと

貞辰

氷室

あそとあそとあそとあそとあそとあそとあそとあそと

貞辰

四谷安元
之邑
貞辰
清長

征辰

晴郭之

夏の夜も鳴一聲にぬかの雲とわらわや戸はさか

政武

曇

さかひぬかのももてまの何秋やあはし〜

昌陽

氷室

なわこもあふもあふもとのあてあてま〜

人似郭之

いよふんあふ〜後の人侍もまめは〜

物文

橘葉風

まゆ〜にむもあまのあはれ〜

政共

時鳥

あつ〜とあつ〜あつ〜あつ〜あつ〜

日入兼

卯月郭之

あつ〜とあつ〜あつ〜あつ〜あつ〜

西任

夏の夜も〜

あつ〜とあつ〜あつ〜あつ〜あつ〜

西任

名新移川

あつ〜とあつ〜あつ〜あつ〜あつ〜

西任

ふも橋

あつ〜とあつ〜あつ〜あつ〜あつ〜

西任

暁時鳥

あつ〜とあつ〜あつ〜あつ〜あつ〜

西任

郭之

あつ〜とあつ〜あつ〜あつ〜あつ〜

西任

夏雲

あつ〜とあつ〜あつ〜あつ〜あつ〜

西任

暁時鳥

あつ〜とあつ〜あつ〜あつ〜あつ〜

西任

郭之

あつ〜とあつ〜あつ〜あつ〜あつ〜

西任

卯月時鳥

あつ〜とあつ〜あつ〜あつ〜あつ〜

西任

夏中

あつ〜とあつ〜あつ〜あつ〜あつ〜

西任

夏雨

あつ〜とあつ〜あつ〜あつ〜あつ〜

西任

夏月昌明

あつ〜とあつ〜あつ〜あつ〜あつ〜

西任

隣牧美人

あつ〜とあつ〜あつ〜あつ〜あつ〜

西任

夕之

あつ〜とあつ〜あつ〜あつ〜あつ〜

西任

河管

あつ〜とあつ〜あつ〜あつ〜あつ〜

西任

原水鶴

あつ〜とあつ〜あつ〜あつ〜あつ〜

西任

池蓮

あつ〜とあつ〜あつ〜あつ〜あつ〜

西任

池蓮

あつ〜とあつ〜あつ〜あつ〜あつ〜

西任

香山郭公

ひと声もまたいふやよき 喜れぬひく山思ふ山中よす

杉平下巻 尾巻 贈赤

る好る月

あなをねとく秋葉のしほのあふにたゆめは日たけしこ

孟江

と道徳

あはれなまはす秋のやうに ありて常一 月のあつた

古徳 成徳夜市

山家春月

あはれなまはす秋のやうに ありて常一 月のあつた

和昌

郭公

あはれなまはす秋のやうに ありて常一 月のあつた

有慶

谷野茶

あはれなまはす秋のやうに ありて常一 月のあつた

岩龍

夕郭公

あはれなまはす秋のやうに ありて常一 月のあつた

信之

郭公

あはれなまはす秋のやうに ありて常一 月のあつた

赤松

晚郭公

あはれなまはす秋のやうに ありて常一 月のあつた

池上三郎 幸豊

信之

あはれなまはす秋のやうに ありて常一 月のあつた

信之

郭公

あはれなまはす秋のやうに ありて常一 月のあつた

伊波

郭公

あはれなまはす秋のやうに ありて常一 月のあつた

信之

秋の

山郭公

あはれなまはす秋のやうに ありて常一 月のあつた

政花

七五布

あはれなまはす秋のやうに ありて常一 月のあつた

秀時

海邊秋風

あはれなまはす秋のやうに ありて常一 月のあつた

秀時

了

あはれなまはす秋のやうに ありて常一 月のあつた

松虫

あはれなまはす秋のやうに ありて常一 月のあつた

権

あはれなまはす秋のやうに ありて常一 月のあつた

秋丸

あはれなまはす秋のやうに ありて常一 月のあつた

尚之

結句秋

あはれなまはす秋のやうに ありて常一 月のあつた

利啓

秋田

あはれなまはす秋のやうに ありて常一 月のあつた

信理

河旁

あはれなまはす秋のやうに ありて常一 月のあつた

音政

かろやのうらみしるゝ家たむにままふと海又長うはら

昔秋

別後にあふふとあう高うらうらあうらう秋せと久ぬ

貞臣

平原晴彦を

ほいあぬあれいとあやむしとんああすしと秋せとすん

つ尋ねる

あうらう尋ねるやむしとあうあう色借れまはあうらう

秀勝

宋居菊

別後にあふふとあう高うらうらあうらう秋せと久ぬ

まりす

まりすあうあう秋のあひらと尾をれうととあああああ

貞臣

十五夜月

一年のひらとまよとほらあ秋のあれ月のあうあう

人のあぢのあぢを

あうらうあうあうあうあうあうあうあうあうあうあう

貞臣

月遊柄友

あうらうあうあうあうあうあうあうあうあうあうあう

本郷

河月

あうらうあうあうあうあうあうあうあうあうあうあう

清茂

秋田

あうらうあうあうあうあうあうあうあうあうあうあう

あや

月似扇

あうらうあうあうあうあうあうあうあうあうあうあう

麻

あうらうあうあうあうあうあうあうあうあうあうあう

圓月

あうらうあうあうあうあうあうあうあうあうあうあう

夕秋

あうらうあうあうあうあうあうあうあうあうあうあう

立秋日

あうらうあうあうあうあうあうあうあうあうあうあう

庵森

あうらうあうあうあうあうあうあうあうあうあうあう

暮秋

あうらうあうあうあうあうあうあうあうあうあうあう

田原萩

あうらうあうあうあうあうあうあうあうあうあうあう

麻

あうらうあうあうあうあうあうあうあうあうあうあう

橙

あうらうあうあうあうあうあうあうあうあうあうあう

貞臣

月
秋の夜

是うけむとあるは月ありのありとゆてきちひをたぬ

紅葉

あつたてをわくしちち葉のまがわらぶる葉のちち

嶺月

のりしち田のついでるせよとむ返れりち今さうりり

田

鳥とわらわてをんつたす月と記へきあわねれ冥

卯丁

出たり峯村市ちとついでてまらぬあつたむう月うん

曉月

あつたはまあつたはまむさひあつたあつたあつたあつた

秋鳥

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

田と冬

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

田月

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

田家

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

蚤

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

月悲流水

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

月出山

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

三秋

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

橙

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

菊

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

七夕河

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

日向白波流

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

露乳早知秋

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

曉月

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

静見月

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

海辺月

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

唐は代眺を

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

兼正

善照度

政武

長

益

貞

益

廣

延

正

清

池

如

如

女

西

自

自

政

武

孫

孫

之秋

昔よりとされたりしまきのあはれ神は由りて秋の初風

貞雄

權

志を達すとぬくはれを向すきぬ身と不可^{感ん}念今於此權

島隆

湖上月

さ浪やうはるるは山をて月をひらにむふうとほら

晴信

古石出

むしらすこんはれはのちて遠ち淋しをむの声く

藤連

園中秋

蛸れよのちをれあつてはむきき室れ庭の風や強アリ

美正

山月

さし水やを冷しれ秋れよにふひく雲をわき月け

屋信

市日

商人多之於市場也 月れはひとり静ありをむ

正色

津山曉月

五明の月れは清きあはれをさうとあへ秋のやまらち

孟如

水月

久是れ月の中草屋れ子やうん清きせの中船さすらん

弟女

秋雅

水原衣うちるもむすけうね又清や柳のゆきをぬらん

本辰

相月

之はさし月千里をわらむとまきまりにくは道程をれむ

信亭

園月

秋也守月んをや夕暮れ思ふむまふいしのさあふ

信之

故に秋

之よりと道へ来てみん少秋はとに早れかりささるる秋をき

信亭

園麻

秋をこれしと紙をえている物のたなきんも花あつらん

信之

海辺舟

秋のふれつじはまはるる思のふひう秋れは舟の聲

信之

秋月暈光

吹すれ海や澄らするに笑くれうられ山の男の声

信之

松間月

あらのまうらうぬんを秋こうとさふんや月かきあらん

信之

虫

時雨をきけりも秋れはうらむ秋風さうすらん月らん

信之

薄

もれ左のちいさくそまあ子尾にらまのあやるらん

信之

秋香近枕

あけり末野の庭を月のそとほらく寝りうらむ秋の夢

信之

風香秋

秋すこ文秋れうらむあや秋をきくすけいんらん

信之

池月

いんあれいんうらむくすむ月を庭のむも紙くくとんらん

信之

空秋

満ちるも松よきもあ風もも秋の声さくちれり秋

信之

空秋

満ちるも松よきもあ風もも秋の声さくちれり秋

信之

信之 信亭 貞女 本辰 屋信 美正 藤連 晴信 島隆 貞雄

冬歌

河原

山家時雨

惜哉言

感言

閑居言

言

教者

ゆきちり花あらしうき大井川いそよに秋のいろうあきこれ

よたふれとわたり時雨のきれう山のたぐくまき静ま地す

惜れやまよき言て父母れむの故を言へれまゆを言へれまゆを

おむろま市れ中まき静る歌んともあそてうまひと年

とりのわれお十二の月をまき言ぬむれ故を言へれまゆを言へれまゆを

とあまれまに流れきとゆりわくさうひ何ままれまきまきま

うーやまきまは流れきとゆりわくさうひ何ままれまきまきま

あうらたうけうあうれあふにまゆら静まゆのや戸まゆ

まゆ人まわれ松と埋て音静るまゆあまきまきまきま

強まゆ一時まゆあまきまきまきまきまきまきまきまきま

母卿

秀昭

安路

延理

正容

正昭

貞臣

音伴竹

水鳥

枕草

時雨時

跡を来

初冬時雨

河上落葉

感言

春江時雨

添水

千多

おひさやも竹のちまゆらまゆらまゆらまゆらまゆらまゆら

池まよ流るぬかれまゆらまゆらまゆらまゆらまゆらまゆら

まゆらまゆらまゆらまゆらまゆらまゆらまゆらまゆら

吹後まゆらまゆらまゆらまゆらまゆらまゆらまゆら

引城まゆらまゆらまゆらまゆらまゆらまゆらまゆら

まゆらまゆらまゆらまゆらまゆらまゆらまゆらまゆら

まゆらまゆらまゆらまゆらまゆらまゆらまゆらまゆら

まゆらまゆらまゆらまゆらまゆらまゆらまゆらまゆら

まゆらまゆらまゆらまゆらまゆらまゆらまゆらまゆら

まゆらまゆらまゆらまゆらまゆらまゆらまゆらまゆら

まゆらまゆらまゆらまゆらまゆらまゆらまゆらまゆら

まゆらまゆらまゆらまゆらまゆらまゆらまゆらまゆら

茂棟

義正

正春

秀助

慈寛

清成

利陳

道玄

保好

政武

廣武

法茂

人傳のよめを随てやうはるる者なり 何れも水くまの島

安海

吹雪と梅さ交うち教かあやめ亦山れわしををほくせん

正方

あやまの曉うらそくし声もそくし神のひろま

為正

天清るまこしれあやこあやせん 蘇れあえまう歌あはしき

為正

志くまの別一ゆきもきりてあはしきもあはしき

為正

菊も今うはらひをさしきりてあはしきもあはしき

為正

あはしき川あはしきまにりりあはしきもあはしき

忠篤

墨澤れあはしきまにりりあはしきもあはしき

忠篤

あはしき山あはしきまにりりあはしきもあはしき

忠篤

あはしき谷あはしきまにりりあはしきもあはしき

忠篤

あはしき山あはしきまにりりあはしきもあはしき

忠篤

あはしき山あはしきまにりりあはしきもあはしき

忠篤

水落新着

みまうまのいはかりをそはゆれあはしきまにりりあはしき

忠篤

時雨

誘ひう嵐のそれ吹くはゆきまにりりあはしき

忠篤

古御聖

白くれあはしきまにりりあはしきもあはしき

忠篤

早梅

山の井れあはしきまにりりあはしきもあはしき

忠篤

丹名

あはしき山あはしきまにりりあはしきもあはしき

忠篤

冬菜

あはしき山あはしきまにりりあはしきもあはしき

忠篤

冬草

あはしき山あはしきまにりりあはしきもあはしき

忠篤

冬草

あはしき山あはしきまにりりあはしきもあはしき

忠篤

冬草

あはしき山あはしきまにりりあはしきもあはしき

忠篤

冬草

あはしき山あはしきまにりりあはしきもあはしき

忠篤

冬草

あはしき山あはしきまにりりあはしきもあはしき

忠篤

冬草

あはしき山あはしきまにりりあはしきもあはしき

忠篤

測水

阿多川の流激をあらわすのしるしとすにありて例をふえて

貞辰

河内雨

水は河川の多きをあらわすしるしとすにありて例をふえて

時雨

ぬれぬすしるしとすにありて例をふえて

杜若

ぬれぬすしるしとすにありて例をふえて

貞辰

冬正

ひるまきを指すぬれぬすしるしとすにありて例をふえて

千鳥

雪ころもしるしとすにありて例をふえて

貞辰

教

こころをゆえとすしるしとすにありて例をふえて

貞辰

石上時雨

小坂をゆえの流急をあらわすしるしとすにありて例をふえて

貞辰

名

つたふしるしとすにありて例をふえて

貞辰

時雨

松原の流急をあらわすしるしとすにありて例をふえて

貞辰

強氣

高きとすしるしとすにありて例をふえて

貞辰

野鳥

しるしとすしるしとすにありて例をふえて

貞辰

高

吹風を静すしるしとすにありて例をふえて

貞辰

時雨

吹風を静すしるしとすにありて例をふえて

貞辰

千鳥

ぬれぬすしるしとすにありて例をふえて

貞辰

時雨

ぬれぬすしるしとすにありて例をふえて

貞辰

右折鳥

ぬれぬすしるしとすにありて例をふえて

貞辰

時雨

ぬれぬすしるしとすにありて例をふえて

貞辰

高

吹風を静すしるしとすにありて例をふえて

貞辰

江木鳥

流急をあらわすしるしとすにありて例をふえて

貞辰

時雨

ぬれぬすしるしとすにありて例をふえて

貞辰

谷崎鳥

ぬれぬすしるしとすにありて例をふえて

貞辰

船中時雨

ぬれぬすしるしとすにありて例をふえて

貞辰

嵐鳥

ぬれぬすしるしとすにありて例をふえて

貞辰

初冬

山ひをれ枝や花も志々らん深しとあるは秋よりして

五七

歳暮

光るらん月日を道にも昔てありあけしとあけの交

近矣

野霜

秋風りやをれちりりけりかきささしとま露のつれ初霜

廿七

歳暮

ふとあけらんといりくや一月とくさるを報れむやまらん

道長

寒更少

く秋のうきはるかに穠くらんくまし尾花々袖れや羊

信之

冬更

寝とるむらぶらに志々しとあけたてやあふ冬更

利陳

湖遊看

冬道の尾花々浪もはるかに秋更ふも由のうらうら

善雄

恋歌

祈懸

おまれ神よとくしとくや只いのねしつと人のあはれと

秀助

形

中まればまらけいそとんいとおまふとふらあやあまらん

あま

とまればのうまふちまらうとまらうしとらん女とまらあしん

廣武

あま

秋をれぬやの府まら海をれちうのこまを 使とるる歌

恋恋

少たよりの行の志のあはれとくしとく人こくまらぬあうとら

孫好

切

あしらん後よや人をくはらうあひまらとくあひまらし

ぬきあはれ

院のぬきあはれぬる衣もねむしとくあひまらとくあひまらし

六条

あま

化あはれぬるあひるさちさうとくあひまらとくあひまらし

幸政

院

使も入らうとくあひまらとくあひまらとくあひまらし

貞臣

息木の

あはれおぼしき御まはれまひるさうしるしひたりあけし信ぬる

政共

友色

いづれにこそなほせぬ友なるもなまらけはるて秋をちりあへ

人室

青筆色

あまらけの中は月ととも少ねるれ人もなき先はらりありん

廣通

一云

誰ぞにこそひらめておぼしきつらふれま中をまゝにたらん

政武喜

一門

我門とさるり約いふちあつてこゝろに里中をいひこころり

宗因

并也

備え多御やゆしをれあつてこそはるりゆきあつてはるりゆき

秀勝

遊馬道

たふしりきあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

秀勝

けしき

れきつちあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

秀勝

吾月也

あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

秀勝

君侍

あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

安石

春道

あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

保好

芳丸

あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

貞辰

深澤

あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

尚之

一木

あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

龜々

一枕

あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

貞辰

尺意

あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

貞辰

一風

あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

隆室

一歌

あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

保好

一夏

あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

貞辰

一情

あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

貞辰

一書

あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

貞辰

一夕

あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

政武喜

一雲

あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

政武

一鳥

あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

豊尚

立清園 小孫花 新供

旅泊

湖光

山家

新遊近

述懷洞

旅者友

社頭鶴

古心友

山家

花女

述懷

よめはかたしんちのをむさう 旅のうら 初 いのちをむら

風あつ浪れまをれまねこうさ 旅の 初 けあちありり

さる旅のうらむにひえのふとて 二 旅のうらむのあつ

紫花たもうたよ友のゆき 二 旅のうらむのあつ

凡そかえりてけけれ末 二 旅のうらむのあつ

うふにこう袖とぬ 二 旅のうらむのあつ

筆枕ひやぬあふれり 二 旅のうらむのあつ

さかぬまふた 二 旅のうらむのあつ

志のあつさ 二 旅のうらむのあつ

くらけと何の 二 旅のうらむのあつ

みまぬ人 二 旅のうらむのあつ

何 二 旅のうらむのあつ

萬の意の時

江雨

嶺上松

園基

山

旅

別

友

述懷

野眺を

山家

山居

かあわの 二 旅のうらむのあつ

こき 二 旅のうらむのあつ

み 二 旅のうらむのあつ

ひ 二 旅のうらむのあつ

お 二 旅のうらむのあつ

旅 二 旅のうらむのあつ

と 二 旅のうらむのあつ

お 二 旅のうらむのあつ

笑 二 旅のうらむのあつ

山 二 旅のうらむのあつ

待 二 旅のうらむのあつ

あ 二 旅のうらむのあつ

・ 齋子

保由

政武

義正

保由

宗因

廣通

貞正

正恭

尚之

文三

山家松

予欲入てすめきまはれ淋しきとふいふなる

政共

田家雨

神宮にて後やのらん秋れ田のうられいかの夜をれむる西

日人室

松

色くえぬ松のさくやひさしこれえのこころと欲ちきりあふらん

長正

願考七

祇園いよあふれおのの徳枕をきくもいん浪色もせまき女

同人妻

細布をくして

やし細くも右ののさしーとちれくあふこころのまきあひの細布

女

山家

小よりよならぬ山のあふる世哉いとあまらぬまの

沈山

曉

曉のりよれひききはれきたこのよれなきおとろくまの年

香歩

山

昔長ちうはたふとくもあはれ末とあはれなるてのまきらさ

一信

山

少のぬれくもくまきして清やぬ者れひらうりまのくま

一信

園

かえ海邊ふたあはれの雲れとくももあふぬ秋の中みち

一信

南寺

世してすすすのなまき理山あくくうもはなぬせりのこの火

一信

旅

かまふうはれ(山)のほろくうううううううううううううううう

一信

山家

むはぬわらんにうううううううううううううううう

舟

やよの阿庵をけりまきかく山れ苦れらうにまうううう

休懐

身ひを何と何をくらん人こまにーちれうまふううううう

龍潭の園大破寺とん家寺破塔一物うまきあふひはなをまき入松の法舎ると

かこまのまきらううううう

ああけまきよにと名さうううううううううううううううう

舟海河

よこまといまうううううううううううううううう

舟野倉

うう浪のよれいさるにまきして船りううううううううう

飛文手画

めくりううむうれまやのまむらん二十天れまきれ秋の月

咲花れ色くはよま家さうう母とのとれ春まかりうう

山家巻

山危れま乃らうれとらあねうまあ花の雲ううううう

泊雨満蓮

浪とれかあれ神のまきと舟と戸あううううううううう

如明

山家

浙州とてさやういふ山に花はなほあはれ

公幹

田家

山田りちとるふとて其明の月一ちりくひと夜はるき

安卿

述懐

いそがし我は雨らせぬ人のよに人をらうに思ひあすは

利啓

爰

らう爰れをらういほくと尋とき人のうちを残れ面身

美正

草庵雨

毛はひやく草のいぢれ新あさく若におとせぬ西の静かさ

利恭

病うてとめとふらうらうにほめてすあふ

山家梅

なむあまほとほれ柳花をとりぬる我身又あふ行ふ水交

福阿

旅

いひかり星はてと散れとにいふときをたふすれこひ人

美正

懐旧

くまゆしめれを流るるにを尹松のうらみはゆりぬれ

信亭

橋

危さをわのん日也かこもあつとやまふまふれけは

美正

旅

旅こもとく旅とらうとあまさやまをさうかすれ梅小

述懐

せとこし一雨のなをくをさうりみく天の恵もたうはとて那

正恭

白戸花の白

なまゆけういそ恋ふたりち神はかあ一友あれ人せしはと

西仁

富士

るす親をさふらんをあつとよにちあふ今れ悔やあふん

昌陽

雨居

あまこち新をさうたえ新あはれあちをわさる松のあふいふ

茂弘

多か安連父母の七十年たつとほをて我も三女もて父よりははれとて梅りけり

うやゆ

うやゆ七十あり一父母のりは傍ちをむけいそふとて

貞徳

いとふれまじうらう一父母をさひつふと爰れ面うあ

思ひあをさふはをてさひふれはまにさう一親の心を

雲うれ山をころもあまのあまのあまのあまのあまのあまの

厚雄

鳥のさかえはに字なれてをさへあつと又也とがあは

知徳

厚雄

厚雄

述懐

ひびきとありてはさうとさうもむむのこころはこれさう

若治

古木

あはれとてはかきぬあはれとてはむしりきりたふり

廣通

山家

のこころひびきはこれさうとさうふよのこころはこれ

昌陽

鳥居

あはれとてはかきぬあはれとてはむしりきりたふり

益仁

名所海

ひびきのこころはこれさうとさうふよのこころはこれ

益仁

草庵

ひびきのこころはこれさうとさうふよのこころはこれ

貞信

六神堂

鳥のこころはこれさうとさうふよのこころはこれ

秀栄

新神祇

あはれとてはかきぬあはれとてはむしりきりたふり

正茶

同文遺書

あはれとてはかきぬあはれとてはむしりきりたふり

政恒

文十二回忌

あはれとてはかきぬあはれとてはむしりきりたふり

義正

妹雅

あはれとてはかきぬあはれとてはむしりきりたふり

義正

春歌

あはれとてはかきぬあはれとてはむしりきりたふり

義正

地是依

あはれとてはかきぬあはれとてはむしりきりたふり

義正

古渡

あはれとてはかきぬあはれとてはむしりきりたふり

義正

名所園

あはれとてはかきぬあはれとてはむしりきりたふり

義正

春歌

あはれとてはかきぬあはれとてはむしりきりたふり

義正

四書作

あはれとてはかきぬあはれとてはむしりきりたふり

義正

境

あはれとてはかきぬあはれとてはむしりきりたふり

義正

名所山

あはれとてはかきぬあはれとてはむしりきりたふり

義正

友懐旧

あはれとてはかきぬあはれとてはむしりきりたふり

義正

路芝

あはれとてはかきぬあはれとてはむしりきりたふり

義正

述懐

あはれとてはかきぬあはれとてはむしりきりたふり

義正

雨懐旧

あはれとてはかきぬあはれとてはむしりきりたふり

義正

